

2016年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 向日葵会	代表者	中澤 博子	法人・ 事業所 の特徴	地域住民が主体となって設立した保育園を母体とする法人です。そして、保育園設立に奔走した親たちが中心となり、地域住民と協力して「自分たちが入りたい高齢者施設」を創りました。現在、2つの保育園の他、デイサービス、小規模多機能、居宅介護支援センター、地域包括支援センター（市の委託）を運営しています。
事業所名	小規模多機能 ひまわり	管理者	山田 恭史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	3人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制や内部運営など「外部評価」を実施するために必要な情報提供を行う。 「運営推進会議」で出された意見に対する対応の結果や進捗状況を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「初期支援」「自己実現の尊重」「日常生活の支援」に関する職員の自己評価が前回と比べて大幅に高くなった。 「外部評価」を受けるための事前の情報提供や当日の運営推進会議の内容を工夫した。 運営推進会議の議事録（報告）を配布する際や運営推進会議において、前回の意見に対する結果や進捗状況を報告するようにした。（例えば、夜間防災避難訓練において「応援連絡網」に応援して下さる近隣のご家族の連絡先を反映すること等） 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄カレンダーや細かな記録により情報共有でき、大変参考になっている。この先、もっと悪くなると思うと投げ出したくなることもあるが、もう少し頑張れるかなと励みになる。 活動への参加は、その日の本人の体調を見ながら対応してくれており、心強く安心している。 本人はアルツハイマー型認知症で思っていることを言葉で表現することが出来ないが、最近笑顔が増えており、ありがたく思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちのケアの根拠や実践の意味をチームとして共有する取り組みを進めるとともに、ケアや実践の評価において数値化できるものは数値化する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能の存在や位置がわかるような掲示を実施する。 1階事務所において常に総合案内ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入口に貼られた看板ができた時はすぐに気付いた。 	特になし	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能ひまわりの存在や具体的な場所・機能が一目でわかるような掲示を工夫して増やす。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> とりわけ、中新井の地域において、自治会開催の行事や取り組みに参加させていただく中で、小規模多機能や第2ひまわりの宣伝を行うとともに、あらためて法人全体の理念や各事業所のサービス内容を地域住民に知っていただくように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との交流や地域行事への参加が進み、地域とのかかわりについて職員の認識が深まっている。 新たな地域住民との繋がりもできた。 自治会主催の防災訓練や「三世代ふれあいまつり」に参加した。 同法人の保育園や保育園児との行事や地元の中学生の職場体験で交流した。 並木地域包括支援センター主催の研修や会議に参加した。 ケアマネモニター会を実施し、小規模多機能ひまわりの宣伝に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の取組みに参加させてもらうのはどうか。介護に不安を感じている方は多いと思う。 お達者クラブの介護予防教室も良い機会になるのではないかな。 地域の行事やイベントに参加するだけでなく、もう少し外にアピールできると良い。 並木地区で長く地域を支える活動をされてきた方々が、地域で良い日々を最後まで過ごせるのも、小規模多機能ひまわりのような事業所があるからだと思う。事業所を通じて、そういった方々のお手伝いができたらと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事やイベントに利用者が参加すること自体が小規模多機能ひまわりの周知に繋がると捉え、更に積極的に参加してアピールする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議において情報を共有し、地域（中新井自治会）との連携・協働した取り組みを進める。 利用者さんの住む地域の（利用者さんにかかわっている）民生委員をはじめとする地域住民の皆さんとの連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の利用者さんが増える中で、必要な時に、必要な事を、必要な量の支援のあり方を検討し、事業所の機能と地域にある機能を組み合わせて多様な支援に努力している。 地域や近隣の催し物（町内会の夏祭り、平和のための戦争展、小品盆栽展、キルト展など）に参加した。 医療機関とのカンファレンスに積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議に出席したことがあるが、施設と地域住民が情報共有できる良い場だと思っている。特に一人暮らしの方には地域住民が情報を共有できると良いと感じている。 10年前、母は歩けなかったが、孫に会うために歩けるようになった。子どもの力はすごい。保育園との交流は続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が地域に貢献している喜びを実感できる機会を持つ。 一人暮らしの利用者を中心に、年1回は近隣の方と公的機関を含めて情報共有する機会を持つ。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の年間計画を作成し、行事見学を含めて年6回の開催を目指す。 運営推進会議において情報を共有し、地域（中新井自治会）との連携・協働した取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議や回覧板を通して、地域の活動やイベントの情報収集を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 望年会を見学することで、利用者の方や職員の方の様子を見ることができ、とても参考になった。 運営推進会議は昼間の方が出席しやすい。（夜は家のこともあるので、出席しづらい。） 会議形式だけでなく、いろいろなことをやった方が良い。 座談会形式はどうか。議題を特に設けず、いろいろな話ができるとう良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議においていろいろな話ができるような座談会の場を設けるなど、その運営を工夫する。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の防災訓練を実施する。 自治会主催の防災訓練に参加する。 1年かけて、（法人・高齢者部門の）防災計画（「事業継続計画」）を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の防災訓練へ参加した。 夜間防災訓練を実施。運営推進会議メンバーから提案があり、利用者さんのご家族の連絡先を掲載した応援連絡網を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練を多くやることに越したことはない。 利用者の訓練よりは、職員が多く訓練した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会主催の防災訓練に参加するとともに、職員の夜間防災避難訓練を実施する。 日中のデイとの合同防災避難訓練に参加を呼びかけ、防災計画について説明する機会を設ける。

